

『日本芝草学会2019年度春季大会』

山梨大学・甲府キャンパスで開催される

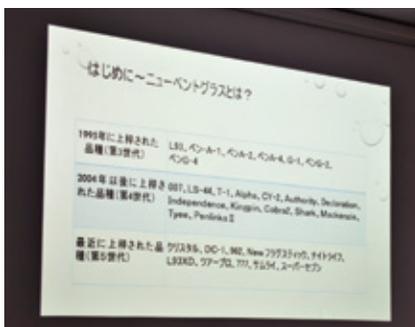
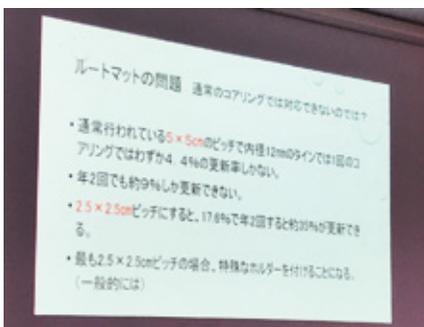


会場となった山梨大学は、日本では珍しいワイン専門研究所である「ワイン科学研究センター」がある



ゴルフ場部会の
牛木雄一郎部会長

「ゴルフ場部会は、現場の問題を芝草学会につなげることを目的に2005年に発足しました。今後も現場で起きているよく見かけることを問題提起という形で取り上げていきたいと思います」



牛木部会長の発表内容。ニューベント（第3世代）が日本に上市されてから24年経った



参加者97名で盛況だったゴルフ場部会

日本芝草学会（高橋新平会長）は、6月14日〜16日の3日間、山梨大学・甲府キャンパス（山梨県甲府市）をメイン会場に「日本芝草学会2019年度春季大会」を開催した。全国からグリーンキーパーや農薬、肥料メーカー、大学の研究者など、260名以上が参加した。

今回の春季大会は初日（14日）に、メイプルポイントGC（山梨県上野原市、18H）でゴルフ場見学会が行われた。視察プレー後には、現地検討会として『冬季グリーン保温のため電熱線を埋設したグリーンの効果』と題した講演が、同GCの谷村勝志キーパーから行われた。その他に、日世南アルプススタジアム（櫛形公園陸上競技場）や、山梨大学医学部グラウンドなどを周る現地見学会も実施された。

そして15日の午前には各部会

（ゴルフ場部会、公園緑地部会、校庭芝生部会、グラウンドカバープランツ緑化部会）がそれぞれ開催された。今回のゴルフ場部会（9日）のテーマは『ニューイベントグラスの管理上の問題点を整理する』で、まず最初に牛木部会長から『芝草管理の現場で起こっていること』という発表が行われた。

次いで、『ニューイベントグラスと管理機械の利用方法』と題した発表が外木運営委員から行われた。ここでは、ニューイベントグラスの普及と管理機械の関係や、ニューイベントグラス普及に伴い、大きく変化した機械（グリーンモア、目土散布機）の利点や欠点についての発表が行われた。

ニューイベントグラス（第3世代）が上市され、今年で24年を迎えるが、2004年以後に上市された第4世代（007やタイイ、CY12、シャークなど）、ここ最近上市された第5世代（777、DC11、クリスタル、962など）が登場し、密度が高く、より低刈に耐え、耐暑性が高い品種が増えつつあるが、近年の異常気象や温暖化で真夏の気温は経験したことがないような状況になっている。

外木氏の発表内容

1. H/L比較表①

作業高さ	エンジン回転速度は900rpm		
	リール 回転速度	クリップピッチ 9枚/分	5-11枚/分 11枚/分
High Clip	L.81Steps	L.9m (20sect./m)	L.6m (25sect./m)
Low Clip	L.113Steps	7.5m (12sect./m)	6.0m (15sect./m)

外木秀明ゴルフ場部会運営委員
（ライフィン株）



ニューイベントグラスの導入が進んでいるゴルフ場で、今後の管理の上で問題になると思われる事柄を

6. キヤ速度による芝草量の推移

刈草機	刈草速度	芝草量	芝草量	芝草量	芝草量
370cmキヤ	2000	21.4	24	22.5	21.5
	2005	19.5	23	21.5	20.5
40cmキヤ	2000	20.5	24	22.5	21.5
	2005	19.5	23	21.5	20.5
45cmキヤ	2000	20.5	24	22.5	21.5
	2005	19.5	23	21.5	20.5

「芝草学会では数年前から、講師派遣事業」を立ち上げています。芝草学会から中部ゴルフ連盟に講師を派遣した事例もあります。ゴルフ場部会では話題を中心に情報提供しています」



ファシリテーターの林重人ゴルフ場部会
運営委員＝グランディ那須白河GC

整理し、情報共有していく、というのが今回のテーマ立案の背景にあったという。

このような背景もあってか、今回の春季大会は北海道から東北、中国地方、九州といった幅広いエリアから多数のキーパーの参加が見られた。ゴルフ場部会の最後には、キーパーや各メーカー、大学の研究者などの参加者を交えて、成功事例や問題点等の総合討論、質疑応答が行われた。

同日の午後からは評議員会、総会・表彰式をはさみ、その後「ハイブリッド芝の可能性を探る」芝



ゴルフ場部会に参加者したキーパーからも発言が

生管理の立場から課題克服について」をメインテーマに、①ハイブリッド芝の変遷・種類とその利用方法について（飯島健太郎氏、東京都市大学）、②ハイブリッド芝の芝生管理について（山口義彦、日産スタジアム他2名）、③サッカープレーヤー側の理解について（加藤朋之氏、山梨大学）——と題したシンポジウムが開催された。その後、夕方からは情報交換会も開催され、約150名の参加があった。

そして、最終日となった16日の午前には研究発表（口頭発表）が行われ、ABCの3会場（全31題）に分かれ、ゴルフ場関係者やメーカー、各大学の研究者らからの発表があった。「ビール醸造副産物由来の肥料を活用したゴルフ場コース管理のライフサイクル及びターフクオリティ評価」（株アコーディア・ゴルフ、南嶋晋二郎氏）、「ハイブリッドバミューダグラス」「美ら緑」の農林水産省品種登録出願（第二報）（カネコ種苗、西本淳氏）、「SOEIX分析を用いた芝生地土壌における土壌微生物量の季節的推移（第一報）」（ライフィン、株、外木秀明氏）など、充実

資材展示も充実していた（バイケミックスジャパンやハスクバーナ社、タキイ種苗）



最終日の口頭発表も充実



春季大会の運営スタッフを務めた山梨大の学生と、加藤朋之運営委員長



ゴルフ場見学会（14日）の会場となったメイフルポイントGC



した研究発表も多く、発表によっては満席も見られた。
 なお、2019年度秋季大会は9月14日から16日の3日間、鳥取県（会場未定）で開催される。
**日本芝草学会のゴルフ場部会
 8月にバミューダ研究会を開催**

最後に話は少し変わるが、ゴルフ場部会は「バミューダ研究会」を2016年から独自に開催している。今年は8月24、25日の2日間に『第3回バミューダ研究会』を山口県にある、宇部72CCで開催する（24日・同CC阿知須コース、25日・同CC万年池西コース、26日・同CCイーグル）。現地視察でのプレーに加え、導入のためのリスク、バミューダグリーン導入の条件、バミューダグリーン管理のための必須作業について、「これから環境変化に対するバミューダグリーンのメリット、デメリット」といった内容の研修会も予定している。詳細は、日本芝草学会のHPに記載されているので確認してみると良いだろう。なお、研修会の会費は、日本芝草学会の会員は無料となっている。